

課題名： 保健学分野における倫理教育の効果

1. 研究概要（対象・目的・方法）

平成 27 年度保健学科看護学専攻の授業『ライフサイエンス・医療の倫理』を受講した二年次生 83 名を対象とし、保健学科で行われている倫理に関する授業の効果を明らかにし、今後の倫理教育に活かすことを目的として以下の方法で研究を行う。

<調査項目>

- ① 倫理に対するイメージ、倫理に関する用語（ES 細胞、iPS 細胞、クローン技術、ヒトゲノム解析、遺伝子診断、出生前診断）の個人の認識度
- ② 授業方法に対する個人の意見（授業で使ったノート（コーネル式）、グループディスカッション、授業全体の学びについて）
- ③ ライフサイエンス・医療の倫理における課題について、グループディスカッションで話し合われた意見
- ④ ライフサイエンス・医療の倫理の課題に対する方策について、グループディスカッションで話し合われた意見、個人の考え

<解析方法>

アンケート結果を用いて単純集計を行う。

- ① 授業開始前・終了後のアンケートより収集し、授業前後で比較する。
- ② 授業終了後のアンケートより収集し、単純集計を行う。

個人レポート、記述問題の記述より収集し、図解化、あるいはカテゴリー化を行う。

- ③ 第 2 回授業（グループディスカッション）で用いた個人のレポートの記述より収集し、考えられた課題を図解化する。
- ④ 第 2 回授業（グループディスカッション）で用いた個人のレポートの記述、最終回に実施した記述問題より収集し、コーディングののち、カテゴリー化を行う。

2. 研究の開示

得られた結果は、論文等で発表します。

3. 個人情報の扱い

連結不可能匿名化を行いますので、個人が特定されることはありません。

4. 研究機関名

大阪大学医学部保健学科

5. 研究責任者名

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻統合保健科学分野教授・井上智子

6. 相談窓口

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 看護管理学教室

井上智子 email : t-inoue@sahs.med.osaka-u.ac.jp

7. 研究対象者に研究への参加を拒否する権利を与える方法

ご同意がいただけない場合も、不利益を生じることはありません。研究結果の公表以前であれば、同意はいつでも撤回可能です。上記相談窓口へお越しいただくか、メールアドレスにご連絡ください。